



新世紀のキャンパス

Campus of New Century

福岡女子大学 国際学友寮 なでしこ



窓側(左側)の4つの個室に、約16畳のダイニングキッチン、浴室・洗面所、トイレからなる4DKを、留学生とルームシェアする。

グローバル人材育成のアイコンとなった「国際学友寮 なでしこ」。

全寮制とするからには、家賃も教育施設に相応の価格設定とし、月額1万5000円と低料金だ。



福岡女子大学は2008年より「福岡女子大学改革基本計画」に沿って、“次代の女性リーダーを育成”を目指し改革を進めている。

2011年4月には、既存の2学部5学科を、国際文理学部(1学部3学科)に再編。国際文理学部の7つの特色のうち、特に①英語教育の重視、②国際寮、③国際交流の3つに注力してきた。

①は学術英語プログラム(AEP)で、担当教員の半数をネイティブ教員が占め、「聞く」「読む」「話す」「書く」能力を育てる。習熟度別に全学

科シャッフルで、1クラス15人(リスニングのみ30人)の少人数英語教育を行う。1年次には週6回の授業、2年次の前期までに15単位の必修科目というハードルの高さだ。

そして②が今回ご紹介する「国際学友寮なでしこ」である。2011年に開設し、日本人学生は初年次全寮制、留学生は4年間全寮制だ。基本的に留学生1人、出身地も学科もバラバラの日本人3人、計4人が4DKをルームシェアし、留学生を身近に感じながら、外国語コミュニケーション能

力を身につける。

③は、交流協定校の開拓と、留学プログラムの開発だ。現在18カ国25大学、いずれも各国の有力大学と交流協定を締結し、交換留学生として半期ごとに20～30名の短期外国人留学生を受け入れている。一方で、学部1年生から私費留学生特別入試を受験して直接入学する一般留学生については、受入数に毎年20名という定員の目標を定めた。これにより、4年間で80名の私費留学生が常に寮に入居し、前述の交換留学生も



個室の家具やエアコンなどは全て備え付け、光熱費とインターネット使用料も月額基本料に含まれている。

含めれば、ほぼ全室必ず留学生と生活できる環境が整った。2014年度に学年進行が完成する際には、常時100名程度の外国人留学生がキャンパス内に在籍する予定だ。また、1年間に120人を2～3週間海外に派遣する「LMP120 (Looking for Myself 120: 自分探しの旅120)」という制度では、1年生の約3分の1が海外生活を体験している。①②③の試みが有機的に働き、グローバル人材の素養が確かに育まれている。

改革を伝えようと訪問した高校で、進路指導主事から「今まで『まじめで控えめでおとなしい子』を行かせてきた。出願は減るだろう」と告げられた。オープンキャンパスで全寮制を伝えると、押し黙る生徒もい

たという。しかし、ふたを開けると、志願者数は前年より増えていた。これまで「地元で公立だから」「自宅から通えるから」「国立を落ちてしまった」と入学していた層が消え、「『英語+管理栄養士』が学べる女子大はほかにない」「留学生と寮で生活したい」と、北海道、秋田、愛媛、沖縄など県外入学者が現れ始めた。国際寮をトリガーに、全国区の大学として、差別化と学生の質の変化の両方に成功したのである。入試の目標も、志願者増ではなく「積極的第一志望者の確保」と、入口の意欲を重視。オープンキャンパス参加者は年々増加し、改革前の2009年に686人だったものが、2013年には1550人になった。それだけではない。新学部移行後、約2

年半の間に、新学部からの中退者はたった1名しか出ていない。全寮制と第一志望者増加の奏効といえよう。「『最初の1年間で4年間の過ごし方が決まる』というのが学長の考え。共同生活は最初は嫌かもしれないが、その中で自分自身を見つけて、大学生活をできるだけ良いものにしてほしい」と今井明副学長は語る。

今後は、全国区から世界区を目指す。そのために、交換留学生の送出数増加のための英語教育強化や、教育寮として独自プログラムも必要だと考えている。福岡の地に、世界区でオンリーワンの女子大が存在する未来。考えただけでわくわくするのである。



(本紙 能地泰代)



共用の洗面所には、ワイドな洗面化粧台、4人分の収納ボックスなど、女性向けの細やかな配慮が。ちなみに靴箱もちゃんと4つある。

1Fの共用キッチンに備えられた4つのアイランドキッチン。食・健康学科の教員と「栄養バランスのとれた夕飯の作り方」などの料理教室を開催している。



大広間(約60畳)では、学生が自主的に留学生のための勉強相談会などを実施する。講演会を開催すれば、終了後、講師を1時間以上引き留めることも珍しくない。

